

行政視察報告書

令和5年11月13日

前橋市議会議長 阿部 忠幸 様

議員 岡田 修一 議員 浅井 雅彦
議員 宮崎 裕紀子

記

- 1 期 日 令和5年11月8日(水)～ 11月10日(金)
- 2 視 察 先 福井県永平寺町
 大阪府泉佐野市
 愛知県蒲郡市
- 3 視察事項 ○自動運転「ZEN drive」について
 ○フリーランス移住促進事業について
 ○サーキュラーシティ蒲郡について
- 4 視察概要 別紙のとおり

自動運転レベル4「ZENドライブ」視察報告

ZEN ドライブは、福井県永平寺町を営業運行する自動運転バスで、町内の遊歩道「永平寺参ろ一ど」の一部区間を走行しています。

この自動運転バスは、ヤマハ発動機株式会社の電動カートをベースとしており、4台の7人乗り普通自動車走行しており、路面に埋設された電磁誘導線とRFIDによって運行するため、運転者は必要ありません。

運航については、2020年12月から2021年3月まで、荒谷停留所から志比停留所までの2kmを運行していましたが、その後、2021年3月末に、この区間での乗務員なしの運行を本格的に始めたとのことです。

ZEN ドライブは、自動運転レベル4と呼ばれる最高レベルの自動走行技術を持っており、日本では初めて認可されたものです。このレベルでは、道路状況や交通量に応じて自動的に速度や方向を調整し安全確保や環境負荷低減にも貢献できるとのことであり、「自動走行という先端技術が、人に寄り添うものであり、永平寺町に根差した文化と、自動走行という文明が調和し、共生できる社会になる」という期待が込められており、そのためには、「自動走行」という先端技術だけでなく、「人」という存在も大切にすることが必要だと考えているとのことです。

次に、ZENドライブの自動運転遠隔制御室における制御の方法について、以下のような構成と仕組みになっています。



- ①自動運転遠隔制御室は、監視者1名が3台の自動運転車両を、常時監視・操作しています。
- ②自動運転遠隔制御室は、制御装置と通信装置からなります。³
- ③制御装置は、GPS アンテナや超音波ソナーなどを備えており、自動運転車両が周囲の状況を把握し、安全確保に努めます。
- ④通信装置は、ドコモやauなどの複数回線を自動で切り替えることで、安定した通信を確保しています。
- ⑤自動運転遠隔制御室では、監視者は自動運転車両の速度や方向を調整したり、停止や発進などの操作命令を出したりすることができます。
- ⑥監視者は、監視画面や音声通話などを通じて自動運転車両とコミュニケーションすることができます。

まとめ

いうまでもなく、自動運転は前橋市においても積極的に推進しています。しかし、なかなか具体的な進捗が見えないという感があるため、日本初のレベル4実用化の先進例を視察した。

一般的な公道ではなく、歩行者専用の観光道路を運行するものであり、前橋のような公道前提のものではなかったが、国交省の認可を受けた運航ではあるので、学ぶことも多かった。さらに今回視察の数週間前に事故があり、当面は運航を休止して原因究明と対策に努めるとのことであったが、自動運転の実用化は地方都市にとってはとても重要な課題であるため、先行者としての実績を積み重ね、後に続くものに多くの学びを残してほしいと感じた。

視察概要

- (1) 日時 11月9日(木) 10:30~12:00
- (2) 場所 泉佐野市役所5階
- (3) 視察事項

「フリーランス移住促進事業について」

- ①事業実施に至る経緯、事業の概要（予算等）
- ②地域活性化に向けた取組内容
- ③育成合宿の目的、概要、実績等
- ④今後の取組

【所感】

泉佐野市は人口約10万人で商業・工業・漁業のバランスがよく大阪府南部の「泉州」という地域にある。平成6年に関西国際空港が開港し、8年前まで財政健全化団体で、現在も借金が1,000億円近くある。泉佐野市のふるさと納税実績は、全国でもトップクラスで、2008年からの累計寄附額は1,000億円を突破した。

視察ではフリーランス移住促進事業について説明をいただいた。本事業に取り組むきっかけとして、日本の人口は減少しているが、フリーランスの経済規模と人口は増加していくという統計予想から、フリーランスに着目をした政策を打ち出した。フリーランスの業種としては約4割がWeb・IT系で、今後もIT関係の人材不足が予想されることから、IT人材に特化したフリーランス移住に焦点を絞っている。令和4年から実証実験を開始し、人口減少や空き家対策、シェアハウス、地域企業DXなどの課題解決と共に、フリーランス人材の定住を増やし雇用創出につなげることで、民間・行政共にWINWINの関係を期待している。

フリーランスの方々の仕事が順調に進むように、実績のあるRocks合同会社が泉佐野市から委託され、企業や自治体の関係をつなぐハブとなっている。Rocks合同会社では、フリーランス育成合宿を入り口として一年間で約200人受講し、うち6~8パーセントが3ヶ月以上泉佐野市に滞在するという実績を上げた。合宿は4ヶ月サポート体制で、申し込み後に市とRocks合同会社で面談を行い、合格すると合宿の参加やシェアハウス等が利用できる。合宿中の授業で、ホームページや動画作成などの無料DX促進成果物の制作に携わり、制作物はプロがチェックをし修正確認をして、納品、管理相談まで行う仕組みが構築されている。仕事の発注もRocks合同会社が振り分け、最終チェックも行い、徹底した指導を行っている。

本市でも移住政策を行っているが、全く違う切り口で行政として大胆な政策であると感じた。視察の中で①学べる環境②生活コスパ③アクセス環境④コミュニティ環境⑤実践・挑戦できる環境、の5つを移住環境の重要な要素として掲げていたが、本市でもその環境は充分あると思われる。Web・ITという分野に絞って、環境整備や人材育成に力を入れる手法は、非常に斬新で今後の展開も興味深く、本市の参考にしていきたい。

視察（研修）概要報告書

会派かがやき行政視察 三日目

日時 令和5年11月10日

場所 愛知県 蒲郡市役所 議会事務局

【視察研修内容】

蒲郡市のサーキュラーシティ

愛知県蒲郡市は、循環経済を推進する街＝「サーキュラーシティ」を目指している。サーキュラーシティとは、資源を採掘して生産、消費、廃棄するという従来のリニア・エコノミー（直線型経済）や、廃棄物をどう有効活用するかというリサイクリング・エコノミーとは異なり、そもそも廃棄物がでない仕組みをつくる経済モデルのこと。

蒲郡市では、「蒲郡市に関わるすべての方々のウェルビーイングの実現」を最終的な目標に掲げている。そして、ウェルビーイングを叶えるためには、「経済」「社会」「環境」それぞれで最適なバランスを保ちながら都市として繁栄することが重要である。

サーキュラーシティ蒲郡のアクションプランでは、蒲郡市の発展に寄与するテーマとして7つの重点分野＜教育、消費、健康、食、観光、交通、ものづくり＞を設定した。これらの分野において、サーキュラーエコノミー型製品・サービスの優先購入や製品の長期使用の推進、サステナブルな産業創出やサーキュラーエコノミーの事業化に向けた企業マッチング、地産地消、サステナブルツーリズム、次世代育成など、市内の主要産業や一般市民にとってのウェルビーイングの実現を意識したテーマに重点的に取り組むことを表明している。

また、蒲郡市では、一昨年11月にサーキュラーエコノミーをまちづくりに組み込み、積極的に推進する都市「サーキュラーシティ」を目指すと表明していて、先行するヨーロッパの事例などが、集まった市民らに紹介されました。そして、実証実験プロジェクトの募集を行い、下記のとおりプロジェクトを決定した。

サーキュラーシティは、持続可能な社会を実現し、人々のウェルビーイング（幸せ）を達成する手段として、欧州を中心に世界中で注目を集めています。蒲郡市の取り組みは、その先駆けとなるものであり、今後の発展が期待されている

企業マッチング

蒲郡市のサーキュラーシティにおける企業マッチングとは、サーキュラーエコノミーの事業化に向けた企業間の協力や連携を指す。これは、サーキュラーエコノミー型製品・サービスの優先購入や製品の長期使用の推進、サステナブルな産業創出などを目指すための取り組みの一部。具体的には、異なる業種や分野の企業が互いに協力し、新たなビジネスモデルや

製品、サービスを生み出すことを目指している。これにより、循環型経済の実現と市民のウェルビーイング（幸せ）の実現を目指す。

このような企業マッチングは、サーキュラーシティの実現に向けて重要な役割を果たしている。それは、循環型経済の原則に基づいて、資源の有効利用と廃棄物の削減を促進し、持続可能な社会を実現するためである。

【所 感】

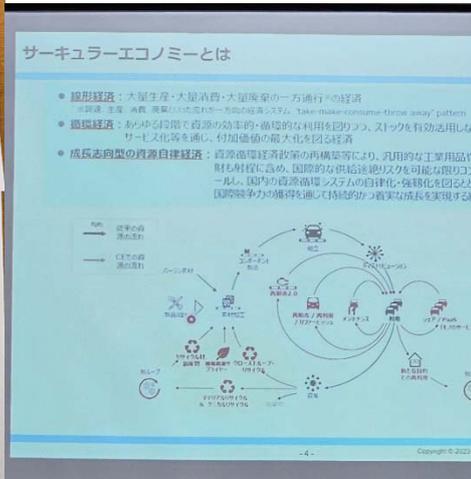
蒲郡市のサーキュラーシティの取り組みにはいくつかの課題がある。まず、人口動向について、蒲郡市の人口は2020年以降急激に減少する見通しであり、公共交通を利用する母集団が減少すると予想されている。また、地域構造から見た見通しとして、公共交通が提供されている人口のカバー率は86.6%で、第1次計画策定時の75.5%から約10%拡大していますが、三谷地区・大塚地区の支線バスの導入によってさらに良化する見込みである。

また、蒲郡市民においては、主な移動手段が自家用車であり、公共交通の利用状況及び利用意向は高くなく、今後も公共交通への転換意向は低いと考えられる。これらの課題を解決するためには、自家用車を有しない公共交通利用者に対して、適正な税金投入額を見定めた効率的なサービスの検討と提供が求められるであろう。

サーキュラーシティは、持続可能な社会を実現し、人々のウェルビーイング（幸せ）を達成する手段として、欧州を中心に世界中で注目を集めている。蒲郡市の取り組みは、その先駆けとなるものであり、今後の発展が期待される。

前橋市とゆかりの深い、松平家、酒井家、徳川家の話が、大須賀副議長さんからあり、歴史や交流の深さを感じた。前橋市政で、よく用いられる「新しい価値」、「ウェルビーイング」などの語句も、政策課題として共通性を感じた。

写真資料



説明資料

説明資料

名刺



議場見学

研修風景

